

碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩心会 発行

現在 会員 数
168 名
8月 地区 258 名
子地区 44 名
葉地区 44 名
大地区 44 名
(合計) (470 名)

元 年 8 月 号 (205号)
号 行 者
根 岸 岳 萃
編 集 者
中 村 愛 岳

光陰は矢の如し

上原支部 関井倫山

あじさいの花も盛りを過ぎ、くちなしの花の香りの漂う季節となりました。私が碩心会に入会させて頂いてから、早や六年が過ぎようとしています。その間、色々な思い出が生まれ、又、多勢の先生方、お友達にお逢いでき、詩吟の勉強をさせて頂いてよかったですしみじみ思っております。それも伊藤先生が、温かく、お体全体で精一杯、ご親切に御指導して下さい、又先輩の方々の良きアドバイス、又後輩の方々の優しいご協力の賜物と、いつも嬉しく感謝させて頂いております。

お蔭様で最初は、恥ずかしさも手伝い、蚊の鳴く様な、それでいて何処から声が出るのか解らぬ様な声で吟じていましたが、やっと一歩だけ前進？し、声が出せる様になりました。まだまだ未熟の一言に尽きませんが、先輩の方々に少しでも近づけます様に、又後輩の方々には、お尻に火を付けられない様にと念願して、一生懸命に頑張っております。

六年の間、新年会、温習会、色々な大会等には支障のない限り参加させて頂いております。

りますが、それといえますのも、県の先生方の吟、指導されていられる先生方の吟、会員の方々の吟を拝聴させて頂いたり、又皆様方の見事な詩舞を拝見させて頂きまうのがとても良い勉強になりますし、又大変楽しみにさせて頂いております。詩舞の折には、私自身が舞い、吟の中の主人公になつた様な錯覚にとらわれ、のめり込み、涙を流して拝見させて頂いている時もあります。それ程吟者の方と舞われる方が一体になつている事と私は感じております。会の都度、会長先生並びに諸先生、又お教室では伊藤先生が常に「自分の吟に涙を流す様にならなくてはいけないですよ」とお教え下さいました。私はまだまだ前述の如き有様で泣いておりますし、我が吟で泣くという事は、一生のうち一度もないのでは：と思っております。

過日お友達にお借りした田辺聖子訳「源氏物語」を読みました折、明石の巻に、菅原道真公の「九月十日」の吟が出て参りました。吟をさせて頂いておりますおかげで本、新聞、其の他の記事に、漢詩、和歌、俳句、詩が出て参りますと読書等が一段と楽しく感じられます。又詩吟を始めてからは眠れぬ夜は「羊が一匹、羊が二匹」と数えませ代りに、吟の詩文の暗記をしたり、

頭の中で、符を思い出して、「ふり」の練習を致し、時を過すことが出来るようになりました。その時の「ふり」の上手な事!! 声を出さないので、教本通りに吟じた様に思えます。その代り、辺りがしらんで来てから眠りに落ち、目覚時計に起され、目をしばしばさせながら、出勤する主人の朝食の仕度をする時もありますけれど…。

先日テレビ放送で、相撲の蔵間関さんが「相手と気合が合い、立ち上った瞬間から勝負の決するまで呼吸をしないのです」と話されましたが、始めて聞き、吃驚致しました。又その折、当り前の事とは思いますが「組んでいるうち中は、下腹に力を入れっ放しにして動いているのです」とも話されました。常々諸先生、伊藤先生が言われます「丹田に力を入れて吟ずること」「お腹から声を出す」と言うお教えを思い出しながら聞いていました。スポーツや声を出す様なものは、すべて詩吟と同じ様な定規がある様に思え、今更ながら自分の不勉強さをしみじみ認識させられ、慄然と致しました。

殊に吟の道を究めますには、奥が深く、行き着く先は知られずと、会長先生さへ申されています。私など入口を探しますのがやっと思えますけれど、唯、人間として、

せめて人道を踏みはずさず、常に真心をもって、優しさ、思い遣りを忘れず、難かしさあり、楽しさありの詩吟のお勉強をしなから、人生を明るく歩んでいきたいと思っております。月報「傾心」も毎月楽しく読ませて頂いており、毎号を待ち遠しく感じています。

◎ 行事予定

◇ 県本部 創立三十五周年記念
吟道大会

とき・九月十七日(日) 十時より

ところ・横須賀市文化会館

◇ 傾心会 秋期審査会

とき・九月二十四日(日)

ところ・逗子市図書館ホール

健康に感謝しつゝ、 任務遂行

葉山地区長 沼田洗岳

待ち侘びた青空が見え、夏一番となりました。会員の皆様始め御家族の皆様も御健祥のこと何よりとお喜び申しあげます。私が葉山地区長を受持つてより十年一昔、あつと言う間に時は流れました。葉山地区

長としての仕事は、

- (1) 葉山地区温習会のとりまとめ実施。
- (2) 県本部、傾心会関係行事の葉山地区割当のとりまとめ。
- (3) 毎月の月報「傾心」総本部誌「吟道」県広報誌「吟道神奈川」を広報部長より受取り、各支部へ配布。
- (4) 其の他

遠い支部への配布は副地区長の沼田義岳さんと分担し、お願いしています。

長い月日には色々ありました。天気だったのに途中から雨に降られ、濡ねずみになった思い度も幾度もありました。でも私はお蔭様で健康で、自転車で路地から路地を走り廻りお届けすることが出来、それが私の生き甲斐でもあり、又健康法で有難く思っています。

今後ともよろしく御協力の程。

(訂正)

傾心七月号「逗子地区の業務について」千葉颯岳さんの記事中

- (五) 当地区の主な処理実務
- (3) 各部への配布を各支部への配布に訂正
- (5) なお各部において地区会議を各支部において地区会議を訂正

寸 感

会長 根岸岳萃

平成の元号もそれほど違和感なく受け入れられつゝあるようだ。一般には、西暦とを使い分ける知恵もある。国内の事件は元号で、外国のそれは西暦で表した方がピンとくる。しかし例えば人物の生れた年を元号に置き換えると、意外な新発見をしたよ
うな気になる。

イギリスのエリザベス女王は大正十五年で、同十四年生まれのスッチャー首相より一つお若い。世界の指導者はどうか。中国の鄧小平は明治三十七年で、当碩心会の名誉会長の松井岳洋先生と同年生れ、大正五年のミッテラン仏大統領もがんばっているが、日本詩吟学院で松井先生のとをつがれた竹末理事長と同年生れ、アメリカでも明治四十四年生れのレーガンから、大正十三年生れのブッシュへと、世界でも学院同様世代交替が行なわれているようだ。

昭和の台頭も著しく、ソ連のゴルバチョフ書記長が昭和六年生れで、韓国のノ・テウ大統領が同七年生れである。

総本部理事の年令別では、大正一桁十八人、大正二桁六人、昭和二人と、大分若がえっ

てきたが、吾々も二十一世紀に向って、学院の発展に大いに活躍しなければいけないことを痛感している。

因に、リクルート等により辞任に追いつかれた竹下前総理が、大正十三年生れとは大方がご承知と思う。 以上

平泉のことども

秋元梁岳

「後三年の役」のあと初代清衡は平泉の北上川のほとりに館を移した。以後、平泉には中尊寺や毛越寺、無量光院などきらびやかな寺院が建立され、三代約百年にわたる華やかな文化の花が咲きほこり、西の京都に次ぐ豊かな繁栄の時代を迎えた。

「奥の細道」をたどる芭蕉は、それから約五百年もの後に平泉を訪れたのであったが、当時見るかげもなく廃墟と化し、山河のみ美しく光っていた。栄華のあとを次のように書いている。

「奥の細道」

三代の栄耀一睡の中にして、大門の跡は一里こなたにあり。秀衡が跡は野にありて、金鶏山のみ形を残す。まず高館に登れば、北上川、南部より流るる大河なり。衣川は和泉がしろを巡りて、高館の下に大河に落ち入る。

泰衡らが旧跡は、衣が関を隔てて南部口をさし固め、夷を防ぐと見えたり、さても、義臣すくつてこの城にこもり、功名一時の叢となる。

「国破れて山河あり、城春にして草青みたり」と、笠うち敷きて、時の移るまで涙を落としはべりぬ。

夏草や兵どもが夢の跡

芭蕉から更に三百年後の一日、平泉を訪れる機会を得て、中尊寺、毛越寺の広大な寺院や寺院跡を参詣した。

高館山の北側の石段を登りつめると、小さな堂宇の義経堂がある。義経堂は天和三年（一六八三）仙台藩四代藩主伊達綱村によって建てられたと云うから、芭蕉がここにやってくる六年前のことだ。堂の中には彩色を施された義経の木像が安置されている。

当日は小雨で北上川の流れもけぶって見え残念であったが、義経の流転悲運の最後をしのぶに充分な雨であった。

毛越寺境内の南大門跡のほとりに、芭蕉自筆を刻んだと云う「夏草や」の碑があったが字が読めない程古く、右側に文化三年（一八〇六）に建てたと云う副碑があり、これは読みとることができた。

練吟
素読 (3)

○昨年、法事で親族一同寺の本堂に集まる。僧の読経が始まると間もなく、幼児の音がこれに和した。般若心経である。声の方向を追うと、施主の膝に抱かれて三才の男の子で、とうとう心経を誦了した。も一つの例、こんどは三才の女の子。電車の通路を「雨ニモ負ケズ」を大きな声で唱しながら行ったり来たり。年配のご夫婦が感激。子供のところまで行ってここにこと握手。楽しい光景であった。幼いころから、家族の中で詩歌音読の空気にひたっている、意味は解しなくても、音の響きとリズムが心に浸透して見事に暗記すると言われている。

○幕末の志士達をはじめ、教本にしばしば出て来る西郷南洲、木戸孝允、大久保利通そして伊藤博文など、明治維新の功労者たちは、ほとんどが下級武士出身であるが、彼らは国事に奔走の中でも、獄中においてさえも、いづれも立派な漢詩や和歌を後世に残した。明治中期から大正時代にかけては、夏目漱石や森鷗外などが特に有名である。彼らの思想や学問の根底を形成したのは漢学であった。その漢学は、少年時代か

ら青年時代にかけての漢詩文の徹底した素読が最大の基盤であり、英語や西欧語も、漢語同様の実力を有していた。

○こゝで述べている素読とは、現教本の読み下し文ではなく、教本「本文」(返り点を除く)、いわゆる白文の音読のことである。簡単な例を掲げると

尋胡隠君 ジンコインクン
渡水又渡水 トスイ ユウ トスイ
看花還看花 カンカ カン カンカ
春風江上路 シュンブウ コウジョウロ
不覚到君家 フカク トウクンケ

詳記するには紙数がないが、男子は六才で塾に入ってから二十才頃まで、主として四書五経を音読による素読を徹底して仕込まれた。読書百遍意自から通ず式であった。従って、中国人が驚くほどに漢文の文章が書けた。漱石の言によれば、漢文に通じる者は西欧語にも容易に通じることができるといふ。訓読文では力がつかないらしい。

○だから今更こゝで、漢詩の勉強を音読による素読から始めたらなどと提言する意図は全くない。ただ素読には、訓読の素読と音読の素読があるということ。そして、漢詩文に精通するためには、子供の頃から音読による素読が理想であるということ。憶しておいて頂きたいと思うわけである。

短歌 長島玉岳

大君の御手の中にありし貝
博物館にて拝し俣びぬ
妖精といふはかくやと思いつつ
幼の跳ねる足もとを見つ

俳句 石渡桂岳

(裕次郎灯台点灯)
新らしき灯台点り盆の風
(美空ひばり逝く)
遠花火川の流れの追悼歌

(移籍)

251 村井知風・大船Aより逗子A支部へ
(入会)

538 緑川稔弥 葉山町下山口一二七六
(下山口) (電)〇四六八一七六一〇四八

539 江川行子 逗子市逗子七四一三五
(逗子A) (電)〇四六八一七一三一一六二

昭和天皇崩御、そして昭和を歌い続けて美空ひばりが逝き、芸一筋、男の中の男の演技の辰己柳太郎も逝き、昭和と共に生きた私達の時代は終ったんだなあと胸が痛む。編集を終え、束の間の夏休みを机の前で、ボケーッと過ぎ日の思いにひたる私です。
風鈴の動くと見えぬ暑さかな